

標準委員会 システム安全専門部会 炉心燃料分科会
第 15 回 (S1SC15) 議事録

日 時： 2013 年 12 月 5 日(月) 10 : 00～12 : 00

場 所： 東京都 原安進 第 1, 2 会議室

出席者： 阿部(弘)主査 (東北大)、馬場副主査 (JNES)、下川幹事 (原安進)、
巻上 BWR 幹事 (東電)、小野岡 PWR 幹事 (関電)、小川委員(MHI)、
岩本委員(GNF)、大川委員 (電通大)、本谷委員 (東芝)、河村委員 (電中研)、
北島委員 (電中研)、杉山委員 (JAEA)、市田委員代理青木 (MNF)、土内委員
(NFI)、近藤委員(日立 GE)、鈴木委員 (原電)、森下委員 (京大)、山本委員 (名
大)

計 17 名 (委員代理 1 名含む)

常時参加者：久保、木下 (NFI)、金子(GNF)、福田(MHI)、高松(原電)、高橋 (MNF)、
中島、工藤 (JNES)、杉村 (NEL)、金子 (JNES 増原代理)

(敬称略)

配付資料

- S1SC15-1 第 14 回分科会議事録(案)
- S1SC15-1R1 第 14 回分科会議事録(案)
- S1SC15-2 第 1 作業会報告書 (案)
- S1SC15-3 第 2 作業会報告書 (案)
- S1SC15-4 第 3 作業会報告書 (案)
- S1SC15-5 今後の分科会活動日程ほか
- S1SC15-6 報告書査読状況

議事及び主な質疑応答

1. 資料確認

幹事より議事次第に基づき、配布資料の確認が行われた。

2. 出席者確認

幹事より委員出席者数 (17 名、うち代理 1 名)) が確認され、本分科会の定足数 (14 名 : 委員数 20 人の 2/3 以上) を満たすことが報告された。

3. 前回議事録(案)の確認について (S1SC15-1)

第 14 回議事録(案)について、承認された。

4. 報告書 (案)について (S1SC14-4-1、14-4-2、14-4-3)

今回の専門部会（第 26 回 12/10 予定）での報告にあたり、相互査読のコメント反映状況と報告書案について、第 1WG は福田氏、第 2WG は金子氏及び第 3WG は工藤氏から、それぞれ説明があり、議論した。

第 1WG 報告書（案）について

- まだ、報告書（案）に対する相互査読コメントの主旨を各章ごとに整理し、学会標準書式への整理及び用語集などを含め、これから対応する予定である旨の説明があった。
- まえがきで、燃料の安全設計と炉心の安全設計の定義ならびに本炉心燃料分科会報告書を「炉心及び燃料の安全設計」、「核設計」及び「熱水力設計」の 3 分冊とする説明があった。
- これに対し、第 3 分冊では「熱水力安全設計」としており、安全を入れるか入れないかを議論。最終的には第 3 分冊の安全を除いた表現に統一することとなった。
- まえがきも含めて、まだ分かりにくいところがあるので修正を掛けて、再度レビューすることとした。
- 読者レベルをどこにおくか？については原子力工学レベルを習得してこれから就職する学生が理解できるレベルを考えたらよいのではないかとの意見があった。

第 2WG 報告書（案）について

- 査読コメントを随時反映しているが、コメント内容を第 1、3WG と同様に整理して対応状況が見えるようにしておくとの意見があった。
- 課題の整理について第 2 文冊だけ、本文になく、付録にしている点は、第 1,2 分冊との整合を図る意味で、目次と本文を設けて技術的な課題、制度的な課題に言及した上で、詳細は付録につけるなどしたらよいとの意見があった。
- 核設計パラメータの評価事象で「燃料集合体の誤装荷」は BWR にあって PWR にない。これらの精査が必要との意見があった。
- 最新の核設計コード、手法についても言及して添付 C の現状の課題を再整理要との意見があった。

第 3WG 報告書（案）について

- 相互査読コメント内容と対応状況をコメントした委員及び関連する章ごとに整理表にして説明があった。
- 熱水力上の安全設計に関する用語を熱水力設計で統一することとした。
- 容認可能な実施方法の対象とする範囲に関連して、通常運転時と運転時の異常な過渡変化時の扱いを再整理することが望ましい。通常運転時に限るなら安全設計との関係が見えにくい。第 3 作業会にて再検討し、次回分科会で報告することとなった。

- ・ 第1分冊の図3.4-1燃料棒の安全機能確認のための解析の体系の説明は核設計から熱水力設計に至るパスでBWRとPWRで差がある。整理して次回分科会で説明。
- ・ 用語及び定義について、出典のあるものは、出典についても明らかにすることとなった。

5. その他

報告書の全体構成と今後の分科会活動の予定として以下の確認を行った。

- ・ 今年度中に査読コメントを反映した報告書完成を目指し、年度内に学会の報告書として発刊できるよう進めることを確認した。
- ・ 12月10日に予定されている専門部会への報告（参考資料3のスケジュール通り15:45～16:15 30分）は、本日の分科会説明資料版で中間報告として説明する。説明参加者は福田、杉山、近藤、下川で行う。
- ・ 12月16日に予定されている第55回標準委員会への報告は今回は見送り、査読コメントを反映完了した後、次々回（3月）を予定していることを説明した。

次回 開催日

次回の分科会開催日は、システム専門部会の報告コメントを受けて別途日程調整する。

以 上